



磯駒松通信2016

東松島市立矢本第一中学校便り

東松島市小松字上浮足194番地

TEL 82-2146 Fax 82-7995

成長の実感できた2学期

校長 舛田 育久



文化祭「生徒会キング」の一コマ

冬の時期を迎え、心配されたインフルエンザ、感染性胃腸炎も矢本一中では猛威を振るうまでには至らず、冬休みを迎えることとなりました。これからも、個人でできる予防、家庭、学校でできる予防を行っていくことで何とかしのげればと思っています。

長かった2学期ですが、生徒一人一人がそれぞれの立場、場所で活躍してくれました。そのことが自信となり、成長した姿として実感のできる2学期だったと思っています。今後とも保護者の皆様には、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

【第2学期終業式式辞より】

例年よりも二日早く始まった2学期も今日が終業式となり、その分二日早く明日から冬休みとなります。この2学期も、皆さんの成長する姿を様々な場面で見ることができました。

2学期早々に行われた運動会は、短期間での準備でしたが天候にも恵まれ、全校生徒が一丸となり躍動する姿を見ることができました。文化祭・合唱コンクールでは、その取組の中で学級・学年・部活動の絆が深まり、見る人、聞く人に多くの感動を与えてくれました。保護者や地域の方からも「感動した」とのお褒めの言葉をいただいています。まさに、人に感動を与える「真善美」を感じさせてくれた取組でした。

皆さん一人一人が、自分自身の2学期を振り返った時、成果が上がったものと上がらなかったものがあつたことと思います。では、成果が上げるためにどのような努力をしていけばよいのでしょうか。

努力の大切さをある人がこう言っています。「いまやらねば いつできる わしがやらねば だれがやる」どこかで聞いたことがあるかもしれません。

これは、平櫛田中(ひらくしでんちゅう)という明治末期から昭和の時代まで活躍した、彫刻家の方がっ好んで使っていた言葉です。田中の有名な作品は、知らず知らずのうちにどこかで目にしているかもしれません。田中は、107歳でなくなるまで意欲的に創作活動を行っていました。亡くなったときには、そのアトリエからあと30年は制作ができる材料を蓄えられていたといわれています。

田中は生前、ある対談の中でこの言葉の真意を次のように語っています。「人間は思ったら直ちに実行せねばいけない。考えただけでは、やったことにもならず、消えてしまうものです。『いまやらねば いつできる』ですよ。そして、『わしがやらねば だれがやる』と自分で覚悟すること。これが人間の努力を確実にするものですよ。」と話していました。

「いまやらねば いつできる わしがやらねば だれがやる」、力の湧いてくる言葉だと思つと同時に、覚悟のいる言葉だと感じます。

年明けての2017年の新年の目標を「いまやらねば いつできる」の気概を持ち、取り組んでいきましょう。冬休みは健康に気をつけ、有意義に過ごし、3学期を迎えてほしいと思います。

